

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：ホームヘルプステーション ながひさ

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

日 時： 令和5年9月25日（月曜日）

場 所： 和かち逢う家

出席者：6名

利用者代表	0人	知見者・地域代表	1人
利用者家族	0人	大田市職員	2人
医療関係者	0人	連携訪問看護	1人
事業所職員（職名：管理者・サービス責任者）			2人

欠席者 1人

報告事項：

利用者の状況

①入所者、登録者、利用者の人数

月	利用者数
4月	41名
5月	39名
6月	35名
7月	36名
8月	35名
9月	37名

②要介護度

【介護度別】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	7名	6名	5名	7名	7名	7名
要介護2	15名	14名	14名	15名	13名	13名
要介護3	11名	10名	8名	7名	7名	6名
要介護4	4名	5名	4名	4名	4名	6名
要介護5	4名	4名	4名	3名	4名	5名
計	41名	39名	35名	36名	35名	37名

③男女比率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	15名	14名	11名	13名	9名	11名
女性	26名	25名	24名	23名	26名	26名
計	41名	39名	35名	36名	35名	37名

④年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
60代						
70代	3名	2名	2名	3名	2名	4名
80代	10名	10名	7名	6名	7名	7名
90代	27名	26名	25名	26名	25名	25名
100代	1名	1名	1名	1名	1名	1名
計	41名	39名	35名	36名	35名	37名

⑤地域（住所）別利用

和かち逢う家入居者のみ利用されている。

地域名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大田町	3名	3名	2名	3名	4名	4名
水上町	1名	1名	1名			
富山町	2名	2名	1名	1名	1名	1名
川合町	2名	2名	2名	2名	2名	2名
長久町	17名	17名	17名	17名	15名	14名
温泉津町	3名	3名	2名	3名	3名	3名
五十猛町	4名	4名	3名	2名	2名	3名
大森町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
仁摩町	3名	2名	2名	2名	2名	3名
鳥井町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
祖式町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
大代町	1名					1名
久手町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
波根町				1名	1名	1名
福島県	1名	1名	1名	1名	1名	1名
計	41名	39名	35名	36名	35名	37名

利用者の中には大田市外の方もおられ、住所を変更し利用されている。(美郷町、江津市、川本町)

議 題：

1 活動状況報告

- ・9月20日現在、37名定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用されている。
(新規 4月：0名 5月：0名 6月：1名 7月：2名 8月：2名 9月：0名)
- ・新規利用は4月～9月では5名。サービス終了者は4月～9月は10名あり。

【提供実績】

月	定期訪問	随時訪問
4月	6774回	103回
5月	6532回	170回
6月	5500回	170回
7月	5381回	75回
8月	5646回	71回
9月	5979回	一回

2 意見、要望等

「事業所から」

- ・1年前と介護度別利用者数を比べると介護1は減少。介護5がほぼ倍に増加している。介護2が大半を占めているのは前年度と変わらない。
服薬管理や服薬が自分ではできない方が多い上に、身体介助（食事・排泄・入浴介助）を要する方も増加している。
- ・一年前に比べると利用者数の変動により、定期訪問の回数も増減している。現状として退院後の状況観察や日常生活に介助が必要（服薬・食事・入浴介助）であり頻回の訪問を行なっている。随時訪問についても認知症のため電話対応が難しい（要件を伝えられない）方が多く、訪問している状況は変わらない。
- ・自立支援に繋がるようご自分で身の回りのことができる方については訪問回数を減らす等の検討を行っているが、退院後状態が落ち介護度が上がっている方については訪問回数を増やす等個々の状況に合わせた対応を行なっている。

「訪問看護から」

- ・自立支援につなげるためサービスの増減を行なうとのことだが、訪問門回数を減らすに当たり基準としている事を教えて頂きたい。
→入所直後は環境も変わる上、退院前カンファレンス（情報提供）の際に収集した情報とご本人との状況に差がある場合もあり、安否確認や水分補給など多めの設定としているが、その後も職員間の情報交換を密に行なうことで、自己対応可能な内容については様子を見ながらサービスを減らすよう対応している。介護度の高い方の入所もあり、転倒防止のため必要な手すりやPトイレの設置を検討したり、褥瘡予防マットを使用することで安全の確保も併せて行っている。

「知見者・地域代表から」

- ・コロナ以前に然を利用して、ご利用者のご家族に宿泊して頂くことで、看取を行なえるように聞いていたが現在はどうなっているか。

→ご家族が宿泊されるに当たり、料金を徴収する場合は旅館業との兼ね合いもあり、法律に引っかかるとのことで使用していない。しかし、最近の例を挙げればコロナ下でも面会時間・人数設定は除外し、看取りをされるご家族についてはDrの指示のもと、居室で過ごして頂ける時間を長く持つこともできている。

- ・ご利用者の話の中で外部に出られ、警察のお世話になった方もおられるとのことだが、こう言った事例の場合、リスクマネジメント管理をきちんと行う必要がある。こうした事故が起こった場合は今後の対応方法をきちんと話し合い、ここまでの対応は行うが、これ以上はできないとはっきり言える体制を整えておくことが大切。こうしたリスクのあるご利用者が退居されるとそのままになるケースも多いので注意した方がよいと思う。
- ・大田市役所へ
自己評価は毎年行う必要があるのか？加算等が付くのであれば一概に言えない面もあるが、必要がないのに一生懸命にされているのは気の毒だと感じる。
→確認して報告します。
- ・大田市、長久町を中心に大田市全域からの利用があります。外部の方の受け入れ及び地域住民の生活力向上のための情報発信機能が高まることを期待しています。

「医療関係者から」

- ・都合により不在。

「利用者家族から」

- ・指定したご利用者家族は急遽退去に伴い不在。今後早急に選任させて頂く。

「大田市役所から」

- ・今後についての欄に、「建物以外での定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者確保に繋げていきたい」との記載があるが、外部の方が利用となればこの建物から出かけられるのか？
→和かち逢う家より出かけます。
- ・資料を見させて貰うと現在はかなり空きがあるようですが、入居される方がおられない状況ですか？
→待機もあり、入居される方もおられますが、入院されてそのまま退居されたり、特養の入居が急遽決まったり、亡くられる方もおられ現状はなかなか空きが埋まっていない状態です。

3 今後について

- ・コロナ感染の拡大防止が続く中、ご家族様と窓越し面会をして頂いていたが、5類に移行ととなり平日の14時～16時での面会が可能になっている。家族様と連携し、多職種で精神面での関りを持つ中で利用者様に安心して過ごして頂けるよう支援を行う。また、自立支援に繋がるケアを目指していく。
- ・建物以外での定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者確保に繋げていきたい。
- ・自己評価について
10月に実施していく。結果を3月の会議にて報告する

4 その他

次回 令和6年3月25日（月）15:30～開催予定